

コロナ下における新しい都市農村交流のかたち

— JA^{おうら たてばやし}邑楽館林によるオンライン交流ツアー —

主事研究員 佐藤彩生

新型コロナウイルスのまん延はいまだ都市農村交流に大きな影を落としている。農林水産省によれば、2020年度の農山漁村滞在型旅行の延べ宿泊者数は390.5万人泊と前年度から200万人泊近く減少した。現在の国内旅行の宿泊者数がコロナ前ほどに回復していないことから、都市農村交流の活動は縮小したままであるとみられる。そのようななか、JA邑楽館林ではオンラインツールを活用した新しい都市農村交流を試みている。

1 JA邑楽館林の概要とコロナ前の取組み

JA邑楽館林は群馬県館林市と邑楽郡(板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町)を管内とし、正組合員数は7,954人、准組合員数は8,970人、職員数は391人である(21年度末)。管内の特産品には、キュウリ、ニガウリ、白菜(邑美人)、ナス、トマト、イチゴ、春菊があり、全国でも有数のキュウリの生産地である。

JA邑楽館林は、11年6月に1市5町と「邑楽館林都市農村交流協議会」を設立し、協議会の中心メンバーとして田植えや稲刈り、野菜の収穫体験やJA加工施設でのソーセージづくり等の体験ツアーを実施してきた。近年では17、18年度に8回、19年度に5回実施し、管内にある東洋大学の学生や地域内外のリピーターが多く参加していたが、コロナのまん延により20年度のツアーは実施されなかった。

2 オンライン交流ツアー

JA邑楽館林は、都市農村交流の取組みが途絶えてしまうことのないよう、新しい企画を模

索し、ZOOMを活用してオンライン配信による新たな交流ツアーを始めた(第1図)。オンライン交流ツアーは(一社)全国農協観光協会からの提案がきっかけとなっており、オンライン交流ツアーのコンテンツづくりにあたっては、管内のキュウリ生産農家や稲作農家、JA女性会会員に出演協力をお願いした。一人当たりの参加代金は4,800円(食材費・送料・税込)に設定し、約2時間のプログラムとした。ツアー参加者の募集はJA邑楽館林のウェブサイトやInstagram、広報誌のほか(一社)全国農協観光協会と(株)農協観光のウェブサイトにて行い、定員15名のところ7名の申込みがあった。

ツアーの目玉は、JA女性会会員2名が講師を務めるリアルタイムの料理教室である。キュウリのおいしさを存分に生かしたJA女性会会員考案のオリジナルレシピに沿い、JA女性会

第1図 オンライン交流ツアーの概要

5 オンライン企画 国内トップクラス!きゅうりの産地!
邑楽館林の新鮮なきゅうりを堪能&ヘルシー料理

群馬県の東南端、日本一暑い大地ではぐくまれたきゅうりは、出荷量国内トップクラス!8月に定植したハウスから自慢のきゅうりをご紹介。農家さんとオンライン上で収穫体験も予定!様々なレシピを手掛けるJA邑楽館林女性会の方と食感を活かしたアレンジ料理を一緒に作ります。ご自宅からお気軽にご参加ください!
地元産のこだわり農産物を前日にお届け!一緒に料理体験を行います!

【発送商品】 きゅうり(とれたてみずみずしい!), 上州麦豚 豚バラ、板倉町産新米こしひかり(2kg)、明和町産 梨(1個)

【14:00】(自宅から)接続、ご挨拶。農家訪問(ハウス見学やミニ収穫体験?)料理体験にお野菜豆知識講座も。 稲刈り風景もお届け♪ **【16:00頃】**終了

●開催日 2021年**10月2日(土)** 14:00~ ※無料オンライン会議システム「Zoom」を使用し、スマホやタブレット、パソコンで簡単にご参加いただけます。事前に参加方法をご案内いたします。また後日ご覧いただけます。

●代金 **4,800円**(食材・送料・税込み)

●商品到着日(予定) 10月1日(金) 締切 9月17日(金)

●募集人員 15名(最少催行人員6名)

※お申込は先着順での受付となります。

●企画協力 JA 邑楽館林

出典 JA邑楽館林提供資料

会員と参加者が料理づくりを通じて相互に交流できるのが、このツアーの一番の魅力である。参加者には講師の説明を聞きながら自宅で料理できるように、料理に使用する材料のキュウリや上州麦豚のほか、新米、梨やJA邑楽館林のオリジナルトートバックが事前に届けられた。

ツアーではこのほかに、キュウリ生産農家のハウス見学やJA邑楽館林の直売所紹介、事前収録されたコンバインによる稲刈り作業などが配信され、参加者はJA邑楽館林の地域や農業について知ったり、秋の農村風景を楽しんだりした。

オンライン交流ツアーはJA邑楽館林にとって初めての取組みであったため、キュウリ生産農家のハウス見学ではハウス内の高温による機材トラブルが発生したが、そうしたハプニングも含めて人の魅力が伝わる手づくり感あふれるツアーとなり、参加者からも好評だった。

3 交流の新しさと成功要因

JA邑楽館林では、コロナ前までの都市農村交流の取組みにおいて、農業体験のマンネリ化による参加者数の減少や、収穫等農作業の繁忙期に参加者を受け入れることによる組合員の負担が課題となっていた。しかし、オンライン交流ツアーはJA女性会会員の協力による新たな企画であるだけでなく、稲刈り作業は事前収録されるため農家の協力が得られやすいなどメリットが多く画期的な取組みであった。

なお、JA女性会会員は普段から料理教室などの女性会内での活動が活発であり、以前からJA邑楽館林の企画にも積極的に協力してきた。今回の交流ツアーの企画もJA女性会会長から快く協力が得られたことでスムーズに実

現できた。

こうしたJAとJA女性会とのつながりに加えて、オンライン交流ツアーではJA職員のノウハウが存分に発揮された。JA邑楽館林では地元のケーブルテレビにおいて、JA邑楽館林のキャラクター「でんえんまる」が旬の野菜の紹介や地元の子供と交流を行う15分のテレビ番組「でんえんまる情報局」を長年提供してきた。ここで培った映像機材取扱いのノウハウがオンライン交流ツアーの成功要因になっている。

4 「旅マエ」としてのオンライン交流ツアーの活用

オンライン交流ツアーには、JA邑楽館林にとって都市農村交流の継続性を高めるという意義があるだけでなく、参加者が次に実際に旅行者となってJA邑楽館林管内に訪れるためのいわゆる「旅マエ」における情報発信の機能も期待できる。これまでJA邑楽館林や管内の地域を知らなかった人が、ツアーを通して管内の農業、観光資源や地域の人の魅力を知ること、そこに訪れてみたいという旅行動機が生まれることが十分に考えられるからである。コロナ禍で旅行への不安が拭いきれないなかでは、旅行先として安心して訪れることのできる地域が好まれやすく、人の魅力が大きな誘引力となり得る。オンライン交流ツアーはこうした人の魅力を伝えるツールとしても十分に役立つだろう。

また全国とつながることのできるオンラインツールは、遠隔地の生活者にJAを知ってもらい、ファンになってもらうことで、ECによる管内農産物の全国的な販売促進にも活用できる。オンライン交流ツアーの開発の余地はまだまだ大きく、今後も積極的に活用することで新たな価値が生まれるのではないだろうか。

(さとう さき)

(注)本稿はJA都市農村交流全国協議会の2021年度の事例集作成にかかる調査に基づいて執筆を行った。